

ご挨拶

原爆投下から73年もの年月が経ちました。日常の生活が一瞬にして消滅し、75年間は草木も生えないと言われてきた広島。それが、このような水と緑に囲まれた美しい平和な街に変わるとは、当時は誰も想像もできませんでした。

しかし、ここに至るまでの長い道のりの中で、深い悲しみの中から立ち上がった名も無き多くの人々の無数の営みと、日本各地、世界各地からの多くの支援、このような悲劇は二度と繰り返してはならないという平和を願う強い想いは決して忘れてはならないと思います。

そしてここ数年、海外からも多くの人々が東京、京都だけでなく広島にも来られており、その数は年々増えて来ています。悲劇の街広島がこのような緑豊かな明るい街に変身した姿を見ることによって、世界の平和への道を見つけられるのではと期待して来られている人もおられるかも知れません。

今や世界は大きく変わろうとしています。国対国、民族対民族の過去からの大きな対立、うらみつらみ、これらを大きな歴史の流れの中で、ひよっとしたら幻想、イリュージョンかもしれないと感じ、疑い始めている人が少しずつ、しかし確実に増えつつあるように思います。

私たちは、世界194か国の国旗を一つ一つ掲げながら、言語、宗教、主義、主張の違いを超えて、「世界人類が平和でありますように」という想いだけで、その国の平和を唯ひたすら祈るというフラッグセレモニーを、毎年8月6日、原爆ドーム前で行なってきました。今年で26回目になります。とてもシンプルで、当たり前のことばを当たり前で唱えるだけですが、まず、お互いの国の平和を心から祈る、そこからすべてが始まるのではないのでしょうか。それがまさに広島・長崎の被爆者の強い願いでもあります。

本日は、日本のみならず、世界各地で多くの友人もインターネット中継を通してこのセレモニーに参加して下さっています。すべての皆様と心をつにし、世界平和の祈りを広島から世界に発信してまいりましょう。

2018年8月6日

広島ワールド・ピース・プレイヤー・ソサエティ・メンバーズ

代表 富永 昌平